

回想法サロン・3月号

平成28年 2月29日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台 5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www.piakaiso.sakura.ne.jp

鳥の声に春を感じます

認知症に優しい社会とは

気になる言い伝え

認知症が何かと話題になっています。

*認知症になっても希望が持てたら*認知症を理解してくれる人がいたら*不安を分かち合える仲間がいたら、認知症の人も地域社会で安心して暮らすことが出来るのではと、高齢者とお話をしています。

認知症になっても出来ることは沢山あります。その人の心に寄り添い、何でもしてあげるのではなく、その人に出来ることは何でもやってもらい、やってもらったら「あ・り・が・と・う」と感謝の言葉を伝えればいいのです。



認知症の人も、人の役に立ちたい、人に必要とされたいと思っています。人に必要とされたら、生きる力もわいて来ます。

認知症になっても、自分らしく輝いて暮らせると感じられる地域社会こそ、認知症に優しい社会ではないでしょうか。

子供の頃、朝の一杯のお茶は一日の難をよけるとか、茶柱立つと良いことがあるといわれ、お婆ちゃんの入れてくれるお茶を楽しみに飲んでいたこと。霊柩車を見たら親指を隠さないと親の死に目に会えないとか、四葉のクローバーを見つけると幸せになれると野原でレンゲの首飾りを作りながら、四葉のクローバーを必死に探したりと、生活の中や遊びの中に「気になる言い伝え」が入っていました。

お茶がコンビニで売られる今の時代、急須もない家庭もふえ「お茶を入れる」も死語になりつつあると言われています。自宅でお葬式をしなくなり街中で霊柩車を見ることも少なくなり、親指を隠すこともなくなりました。蓮華の首飾りを作っていた野原もコンクリートで固められた都会では、四葉のクローバーを見つけるのも大変になりましたが、四葉一のクローバーを探していた時間は『見つかる』『見つからない』にかかわらず探してる時間は確かに幸せな時間でした。非科学的と分かっている理由も、理由はわからなくても気にしてしまう「言い伝え」が消えれゆくこと、何だか淋しような気がしています。

3月の予定

おしゃべりサロン

開催日 3月28日(月)

開催場所 龍ヶ崎市役所地下食堂

開催時館 4時～16時

認知症家族会あおぞら

開催日 3月3日(水)、4月6日(水)

開催場所 龍ヶ崎市民活動センター・多目的室

開催時館 13時30分～15時

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター
080-4209-5708 担当 赤嶺